

昭和32年10月1日

1377-123

第1回アジア産科婦人科学會 議事録

(東京, 1957年4月4~6日)

[A] 準備委員会の活動

I. 準備委員会結成

1954年7月25~31日スイス國ジュネーブ市に於て開催された國際産科婦人科学會は従前の慣習を破り, 新しく常設母體として, 國際産科婦人科連合 International Federation of Gynecology and Obstetrics(IF) の結成を行つた. これに依つて今迄相互の關聯もなく, 4年毎に主催國の思いのままに行われていた國際産科婦人科学會を, 常設的に指導統率して一貫した關聯性を與える機關が作られ, 學會集會以外に將來種々な國際的協同事業を行う基礎が確立された訳である. この連合(IF)の事業の一つとして, 世界諸大陸に於てブロック別の學會を開催する事が示唆されているので, 本學會に出席していたフィリッピン國 A. Ayesa 氏をはじめインド國・インドネシア國等代表より, 「アジア・ブロック會を開催しようではないか, そして第1回を日本で引き受けて欲しい」と云う發議があつた. 日本産科婦人科学會代表として出席していた岡大八木教授は「自分の一存では決定出来ぬ問題であるから, その意を體して歸國次第關係方面と協議の上御返事したい」と答えた. 同年12月歸國後直ちにこれを日本産科婦人科学會理事會に諮つた(1955年2月27日理事會記事參照¹⁾). 理事會はこの開催の趣旨に賛成し, 八木・長谷川・三林の3氏を準備委員に委嘱し, 4月の總會理事會迄に具體的立案を作り, これを評議員會に提出する様申し合した. 次いで, 1955年4月1日京都・都ホテルに於ける第7回日本産科婦人科学會總會評議員會で, この問題が討議され, 開催を受諾する事に満場一致で決定した. しかし, フィリッピン學會の案の如く4年目の國際學會の中間期を選ぶとすると, 1956年に當るので, 準備期間が僅か1年よりなく余りに差し迫つていたので, これを1957年に延期してその4月に東京で開催を引受けると云う事に決定した.

(參照²⁾)

會期 1957年4月

場所 東京

主催 日本産科婦人科学會
準備委員長 岡大 八木教授
準備委員 理事全員
幹事 岡大 秋本講師
顧問 名誉會員全員

として, 愈々茲に正式に第1回アジア産科婦人科学會開催への第1歩を印したのである.

八木準備委員長はしかし, 東京に在住せぬ爲準備運動に不便があり, なるべく東京居在の理事から適任者を選ばれたき旨申し出て, 辭意を表明したが, 6月18日の理事會³⁾(東京)に於て協議の結果, これが受付られず, その代りに在京の中島理事を庶務委員として委員長を助けしめると云う條件で, そのまま留任と決つた.

II. 準備委員会の事業

1. 招待状發送

上記の決定に基づき, 先ず, アジア學會開催に就ての招待状をアジア各國學會及び政府機關宛にし(インド・パキスタン・セイロン・イラン・イラク・ビルマ・タイ・マライ・シンガポール・インドネシア・ベトナム・ラオス・カンボジャ・フィリッピン・台湾・中共・南鮮・北鮮・シベリア・ハワイ等)に對して1955年4~7月の間に發送した. 猶, 來賓としてアジア以外の諸國(スイス・ドイツ・フランス・スエーデン・イギリス・アメリカ等の諸國學會及び特定個人宛)に對しては同年8~9月に發送した.

2. 趣意書發行

日本内地の各方面に對しては, 1955年9月趣意書(この全文は日産婦誌7巻10號1363頁に記載)⁴⁾を發行, 物心兩面の援助を要請した.

猶, 會場は東京産經會館を使用する事に決め, 演題申込締切は1956年6月とし, 參加會費は3ドル(1100圓)學會事務所は日本産科婦人科学會事務所内, 取扱銀行一住友銀行東京支店, 交通代理店一日本交通公社とした.

3. 會員募集

内地會員の募集をする爲、日産婦學會々員を對象として1956年4月號に卷頭會告⁵⁾を出した。即ち、演説は主題を産科及び婦人科に於ける人種的特徴、特に、1 子宮癌、2 妊娠中毒症、3 悪性絨毛上皮腫、4 その他とし、演説時間15分(來賓30~45分)、用語は英語として(英語以外の時は英語通訳をつける事)、1956年6月末迄に英文抄録(1000語以内)を添えて申し込む事、同時に醫學展示・學術映畫の募集も併せ行つた。

一方、海外よりの會員募集の爲に Information Bulletin 外地向會報 No. 1 (綠色カバー、デザインは橋爪一男教授)を印刷し、アジア産科婦人科學會(AF)規約案を附し、他に入會申込カード、演説申込カード及び展示・映畫のカード、宿舍・觀光のカードを夫々色別けに印刷して封入し、各國に發送した。

AF 規約案

アジア産科婦人科學會はアジア産科婦人科連合(AF)の運営するところとなるべく、AFが國際産科婦人科連合(IF)のアジア・ブロック會なる爲にIF規約に従つた一定の規約を作る必要があり、これが承認されて初めて、アジア學會と云うものが發足する訳であるので、規約の作製は必要であり、且つ十分慎重でなければならぬ。こゝで日本側が主催國として、その案文を示し、各國學會にこれを討議する時間的余裕を興えなければならぬので、下記の如く準備委員長が原案を作製し、これを Information Bulletin (綠色カバー)に掲げた。

而して、この原案第9條に則り、該設立委員會に日本學會を代表する2名の選衡を1956年3月31日の理事會⁶⁾に諮り、八木・小川兩氏に決定を見た。

Draft Statutes of

The Asiatic Federation of Obstetrics and Gynecology

Article 1. The Asiatic Federation of Obstetrics and Gynecology is a district division of the International Federation of Gynecology and Obstetrics at Geneva, in the area of Asia from the geographical viewpoint.

Article 2. The Federation consists of all national societies of Obstetrics and Gynecology in Asia, which are belonging to the International Federation.

Article 3. The objects of the Federation are the same as those of the International Federation, described in the Constitution (Article 2).

Article 4. The Federation holds an Asiatic Congress once in four years at the interval of the International Congress of Gynecology and Obstetrics.

Article 5. A member society which holds the Asiatic Congress assumes the task of Office of the Federation for four years till the next society in charge is decided.

Article 6. The member society in charge meets the office expense and there will be no contribution by other member societies.

Article 7. The Congress is to be organized by the member society in charge, requesting no financial implicaitons to other member societies.

Article 8. The President, the Secretary and other officials of the Federation shall be elected by the member society in charge for a term of four years.

Article 9. At the Congress, each member society is to be represented by 2 delegates. They form the Board of the Federation and the Board convenes to discuss the agenda of the Federation during the Congress.

4. 役員事務分擔の決定

1956年4月東京に於ける第8回日本産科婦人科學會總會評議員會に於て、八木準備委員長より過去1年間の經過報告を爲し、在京全評議員に役員事務を分擔願いたき旨申し出あり、これを可決、豫算の面では日産婦學會よりの支出額を定め、且つ外國會員の接待費として100万圓の寄附を募集する豫定をたて、これが擔當者として、關東 莊寛・關西 廣瀬豊一 兩氏を委嘱した。これより先、日本學術會議の後援を得る爲に八木準備委員長は長谷川・石川兩理事と共に本田事務局長を訪ねて依頼し、日本醫師會の後援を得る爲には小畑醫師會長に、又東京都知事に對しては小畑會長より安井都長官に、夫々依頼した。

かくして具體化した要點は次の如くである。

會場 東京 産經會館 國際會議場及び5~6階全室
期日 1957年4月4~6日
行事 1957年

昭和32年10月1日

アジア学会議事録

1379—125

4月4日 午後1時 アジア産科婦人科學會結成式
午後7時 レセプション
4月5日 午前9～12時 會員演説
午後0～2時 正午休憩
午後2～5時 會員演説
4月6日 午前9～12時 會員演説
午後0時30分 閉會式
午後 歌舞伎見物

準備委員會

委員 長 八木日出雄
會計庶務委員 中島 精
幹 事 秋本 若二
委員 小川 玄一 (日産婦學會々長)
全理事
顧問 全名誉會員

事務分擔 (關東地區評議員の全部)

1. 總 務 長谷川敏雄°, 石川正臣, 細川 勉
2. 會 計 中島 精°, 渡邊行正
3. 會 場 係 赤須文男, 石川正臣°, 岩田正道,
小川正巳, 真柄正直, 大内廣子,
岩井正二
4. 宴 會 係 莊 寛°, 飯野繁治郎, 堀 漸一郎,
中山 安, 川島廣吉, 三谷 茂, 石
川 治, 小池 一, 柴山幸一, 中井
卓次郎, 秋山 勝, 家坂直清
5. 展 示 係
醫學展示 安井修平°, 小林 隆, 木下正一,
藤井久四郎, 水野重光
商業展示 小林敏政, 増淵一正, 飯島 直, 山
口 清, 森山 豊°
映 畫 佐々木 計°, 橋爪一男, 梅澤 實,
秋元 正
6. 接 待 係
涉 外 山田 康, 三谷 茂, 堤 辰郎°,
關 關, 藤井厚男
國 内 後藤 直°, 小川正巳, 伊藤光雄,
内田六郎, 金澤太郎
7. 觀 光 係
歌 舞 伎 蜂屋祥一, 林 基之, 岩田正道°,
丸山 正
日 光 莊 寛, 佐藤美實, 西川於菟六°
箱 根 飯野繁治郎, 中村文次, 三宅亮一,
水越玄郷, 八十島外衛

ゴルフ 樋口一成°

8. 記 録 係 柚木祥三郎°, 秦清三郎, 藤井吉助,
林 基之, 野嶽幸雄, 尾島信夫,
竹内繁喜

9. 新聞, 寫真係 橋爪一男°, 松本清一, 長内國
臣, 太田角造

(○印は各班長)

5. 日本會員の選定

1956年4月號日産婦會誌⁵⁾に日本會員の募集を行つた所, 申込者が意外に多かつた. 所が, 學會々場の收容人員が約300名であるので, 大體海外100名, 内地200名と豫定していた. 従つて日本會員を制限する必要がある, 準備委員會で協議の結果, この選抜方法を次の如くした. 即ち, アジア學會が國際産科婦人科連合のブロック會である建前からIF日本部會々員であることを第一條件とし, 本年8月末を申込締切として先着順に200名をもつて打ち切る事, 但し日産婦會評議員はこの限りにあらず, 特別に取扱ふこと.

以上の要點で, 會員募集の會告⁶⁾を再び1956年7月號の日産婦會誌に發表した.

6. 演題採用決定並びに決定通知

会場配置の決定・プログラム (外地會報 No. 2) 發送

1956年7月の第2回準備委員會に於て, 申込演題, 展示, 映畫の採用決定を行い, 8月國內・國外に對し採用通知を發送, 同時にCongress Volume 發行の爲, 演説のFull textを10月末迄に提出することを請求した. 他方, 演説順序を決定し, 英文會報No. 2はProgramとして印刷し (赤表紙, デザインはNo. 1と同じ) これは内外の申込會員全部に發送, 同時に會員章 (白色) 會員家族章 (桃色) を同封發送した.

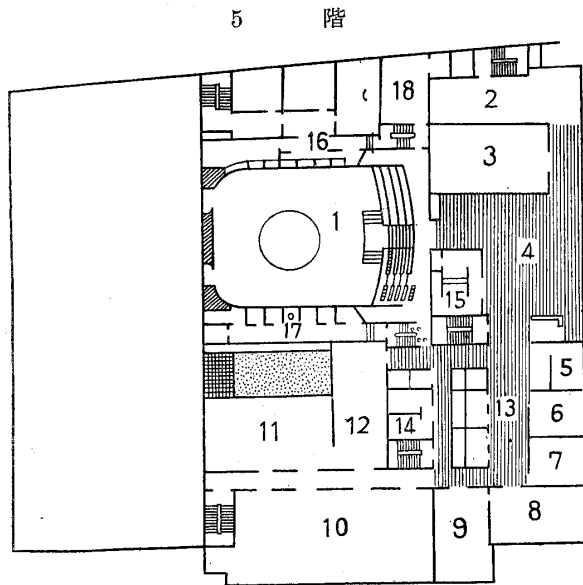
かくて申込演題55, 展示35, 映畫20の多きに達した爲, 會場の配置を次の如く決定. 即ち第2會場を設けてすべての演題を消化する事, 内地の演題は1教室1題として, 代表演題に制限しても猶23題, 外國25題 (以上15分), 來賓演題7題 (アジア以外の國の分, 各30分) 計55題の多數に達したのである.

このプログラムの日本語版は1956年11月の日産婦會誌第8巻12號に掲載⁷⁾した.

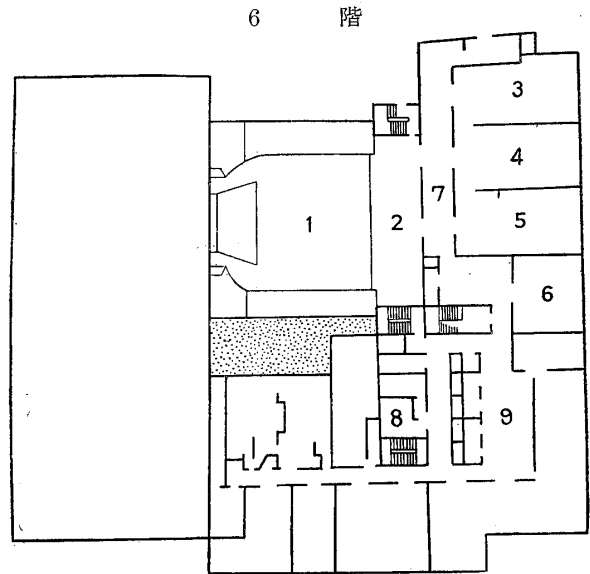
7. Congress Volumeの印刷・發送・宿舍決定通知

演説 Full text を掲載した Congress Volume の印刷は1957年1月に出來上り (體裁は日産婦會誌英文號と同じ, 520頁十卷頭10頁, 計530頁), 直ちに出演者に對して航空便を以て發送, 同時に演説に對する追加討論原稿を2月末日締切にて募集した. 他方宿舍依頼に對し

会場配置案



1…第1会場. 2…会議室. 3…第2会場
(映畫). 4…ロビー. 5~6…クローク.
7…日本會員受付. 8…外人受付. 9~11
學術展示場.



3~5…藥品展示. 6…醫書展示

ては、宿舍割宛決定通知を逐次發送した。

8. 展示物・フィルム到着・追加討論集並びに會員名簿印刷

1957年2月末をもつて締切つた展示物・映畫フィルムは次々と東京事務所に到着、夫々係に於て保管、又追加討論集は Supplement として (Congress Volume と同型、26頁) 印刷、會員名簿 (青色カバー) の印刷も3月中旬完了した。

會員は内地 271名、外國73名、計 344名、同家族 100名、總計約 450名に達したので、會議場ホールの椅子を極度に増して、藥品報道関係者の出席も考慮し、辛うじて全員 500名を收容する設備をととのえた。

以上を以つて、準備委員會の豫定行事は大體終了し、4月の學會開始に漕ぎつける事が出来た。

参照記録

- 1) 國際産科婦人科學會に關する件、ジュネーブ學會報告、アジア産科婦人科學會の開催、日産婦誌、7卷7號、891頁。
- 2) アジア産科婦人科學會に關する件、日産婦誌、7卷7號、893頁。
- 3) アジア・ブロック學會開催の件、日産婦誌、8卷8號、955頁。
- 4) 趣意書パンフレット、日産婦誌、7卷10號、1363頁。
- 5) 会告第1回、日産婦誌、8卷5號、卷頭。
- 6) アジア産婦學會に關する経過報告、日産婦誌、8卷8號、961頁。
- 7) アジア産婦學會準備委員會、日産婦誌、8卷8號、968頁。
- 8) 会告第2回、日産婦誌、8卷8號、卷頭。
- 9) プログラム、日産婦誌、8卷12號、1417頁。

[B] IF 理事会及び AF 創立委員會

アジア學會の機を利用して、IF (國際産科婦人科連合) 理事会を東京で開く計劃があり、會長 H. de Watteville 教授の世話で出席者を選衡中であつた。期日はアジア學會發會式の前日、即ち4月3日朝9時から住友ビル7階 Oak room と云う事に豫定していた所、肝腎の會長がフィリピンで飛行機エンジンの故障を起

し、3日の夕刻にヤット東京に着いたので、已むなくこれを1日繰り下げ、4月4日の朝9時より正午迄産經會館5階2號室の小會議場で開いた。出席者は次の7氏である。

H. de Watteville IF會長 (スイス) (イタリー E. Cova の委任狀提出)

B.N. Purandare (インド)

J. Jordania (ソ連)

八木日出雄 (日本) (オーストラリア J. Harbutt の委任状提出)

B. Carter (アメリカ) (L. Adair 代理)

L.C. Scheffy (アメリカ) (H.C. Taylor 代理)

小川 玄一 (日本) (日産婦學會々長)

この I F 理事會の協議内容は I F 年報日本語版 No. 3 (近く発行) に掲げる豫定である。

A F 創立委員會はアジア學會の開會式に先立つ午後1時から開かれる事になつていた。即ち I F のアジア・ブロック會として Asiatic Federation of Obstetrics and Gynecology (アジア産科婦人科連合) と云うものを結成し、これの規約を作り、その後、この規約に基づいて第1回アジア學會の役員を選出し、こゝに初めてアジア學會なるものが正式に發足する訳である。

これが爲、かねて各國學會に對し2名宛の代表者をこの創立委員會に送る様要請していたが、その委員の出席豫定者は次のようになつていた。

List of Delegation at the Asiatic Congress, Tokyo

A) Originators:

Dr. H. de Watteville (Switzerland)

Dr. A. Ayesa (Philippines)

Dr. Hideo Yagi (Japan)

B) Delegates:

1. India:

Prof. B.N. Purandare (Bombay)

Prof. S. Mitra (Calcutta)

2. Pakistan:

Prof. H. Ahmed (Dacca)

Dr. R.G. Mahomed (Karachi)

3. Singapore:

Prof. B.H. Sheares (Singapore)

Dr. A.C. Sinha (Singapore)

4. Malaya Federation:

Dr. R. Thuriapah (Kuala Lumpur)

Dr. Kanagasnigam (Kuala Lumpur)

5. Indonesia:

Prof. R.S. Prawirohardjo (Djakarta)

Dr. R.M. Judono (Djakarta)

6. Vietnam:

Prof. Tran Dien De (Saigon)

Dr. Nguyen Van Hong (Saigon)

7. Philippines:

Dr. H. Acosta-Sison (Manila)

Prof. A.S. Baens (Manila)

8. China:

Dr. Chien Tien Hsu (Taipei)

Dr. C.S. Wu (Taipei)

9. S. Korea: (欠)

Prof. Suk Whan Kim (Seoul)

Dr. Heung Jin Yoo (Seoul)

10. Hawaii:

Dr. T. Sakimoto (Honolulu)

Dr. S. Nishijima (Honolulu)

11. Hongkong:

Dr. D.K. Samy Pillay (Hongkong)

12. Japan:

Prof. G. Ogawa (Sapporo)

Prof. Hideo Yagi (Okayama)

この内、Originator というのはアジア學會を最初に言い出した發起人であつて、ジュネーブ學會の時に下相談をしたものである。各國代表の中、南鮮の2氏は入國査證がえられず、結局學會に間に合わなかつたのは残念であつた。其の他の諸國は全部この通り集つた。

この創立委員會は3部に別れ、第1部は八木準備委員長の司會で、開會の挨拶・各國學會代表者の紹介をなし、次いで、次の第2部の議長及び書記の選出をした。かくて議長には H. de Watteville 氏、書記には A. Ayesa 氏が選ばれた。

第2部は愈々 A F 規約の制定である。これは日本が原案を作り、各國に送つておいたもので、この原案に對する審議修正をやるのであるから、日本は故意に議長を避け、中立の立場にある I F 會長に司會して貰つた。

この審議は仲々に嚴重で、細部字句修正は4日の豫定時間内に終了せず、遂に小委員會としてインドの S. Mitra, 八木, 北村の3氏に修正案の下書きを委嘱し、翌5日の委員會でヤット決定した。

この規約は次に示す如くて、最初の原案と比較してお読みありたい。

この規約に依り、第1回アジア學會の役員を選出する事となり、H. de Watteville 議長は日本の八木氏を推したいとはかり、満場異議なく、次で小川日産婦會長も日本側を代表して八木準備委員長を推薦すると演説し、こゝに八木會長は決定した。次に八木會長により副會長に木原行男、會計に中島精、幹事に北村三郎の各氏の指名あり、一同これを承認、會長より3氏を夫々一同に紹介して、茲に初めてアジア學會の首脳部が正式に決定した。

写真 1 A F 創立委員会



第 3 部は A F よりかくて正式に選出された八木會長が議長席に着き、1. A F の行うべき事業豫定、2. A F と I F との協調、3. 次回開催地、4. 次回學會の主題等に就き協議し、活潑な意見の開陳があつた。次回開催地としては豫定のフィリッピンが國內事情の爲辭退して次々回に延期を申出たので、次回はインドと決定、會期は 4 年後の 1961 年 S. Mitra 氏が會長となり、役員は追つてインド側が發表するが、規約第 6 條により八木會長は次回學會の準備委員に加わる事となつた。4. の次回學會の主題に就てはインドの提案につき考慮する事とし、翌々 6 日の正午に開かれた第 3 回の會合に於て次の如く決定した。

1. 女子性器の悪性腫瘍
2. 妊娠中毒症
3. 妊産婦死亡及び新生兒死亡

アジア産科婦人科連合規約

Statutes

Article 1. The Asiatic Federation of Obstetrics and Gynecology is an organization of the national society of Obstetrics and Gynecology of countries in the geographical area of Asia.

Article 2. The objects of the Federation are:

- a) To promote the development of science and assist in scientific research work, relat-

ing to all fields pertaining to gynecology and obstetrics, to further the attainment, by all appropriate means, of a higher level of physical and mental health of women, mothers and their children, to develop and improve the exchange of information and ideas in the field of gynecology and obstetrics, to contribute to the research of fresh knowledge in this field, to contribute to the improvement of teaching standards in the profession, to promote international cooperation and facilitate relationships between national medical bodies of the profession.

b) To recommend a common policy in regard to these matters on the proposal of member societies.

c) To represent member societies whenever joint scientific action can be pursued in such matters.

d) To organize inter-Asiatic conferences including all countries or certain groups of countries. Circumstances permitting each inter-Asiatic conference shall be held successively in different country.

Article 3. The Federation shall hold an Asiatic

昭和32年10月1日

アジア学会議事録

1383—129

Congress once in four years.

Article 4. At the end of each Congress, the member society which accepts to hold the next Asiatic Congress assumes the task of Office of the Federation till the next Congress.

Article 5. The member society in charge shall meet all office expenses.

Article 6. The Congress is to be organized by the member society. sponsoring the next

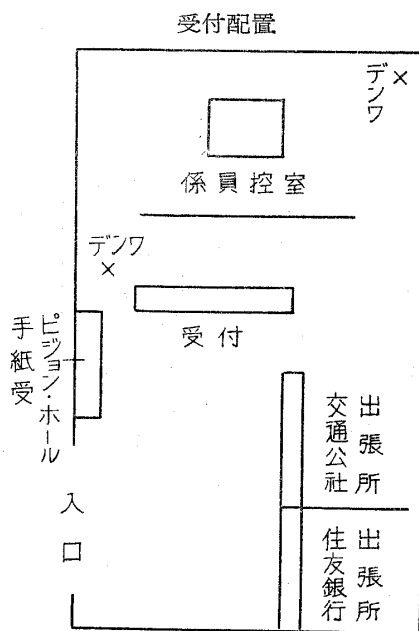
Congress. The past President will be the member of the Board as an adviser of the next Congress.

Article 7. Each member society shall elect 2 delegates to the Congress. They form the Board of the Federation and the Board convenes to deal with the business of the Federation, including subjects for scientific discussion for next Congress.

[C] 學會當時の状況

1. 受付開始・会場設備

學會参加の外人に對する受付は早目に到着する人を見越して、開會に先立つ4月2日より産經會館5階8號室に開設した。受付の配置は下圖の如くて、日本交通公社・住友銀行よりの出張をあおいて、宿舍・観光・通貨兌換等の便をはかった。



受付には通訳として、英語堪能の醫師及び津田英學塾學生各4名を配し、事務の圓滑な進行に努力した。到着外人會員に對しては配布物(F記)を一括封入の青色ビニール袋(三共提供)を手交した。他方受付の一隅にピジョン・ホール(Pigeon hole)を設置し、會期中到着の郵便物等の受けわたしを會員番號を利用して便利にし好評を博した。

會員配布物

ネーム・カード…セルロイド製胸章で、中に氏名・

國名・會員番號を記入。會員白色、
同伴者桃色

バッジ……橋爪一男教授デザイン、扇形で富士を配したもの

Supplement (追加討論集)

會員名簿

各種招待狀…都知事レセプション、學術會議レセプション・歌舞伎觀覽券、晝食券等

観光パンフレット

同伴者の都内觀光券

会場設備は4月3日午後及び4月4日午前を通じ、各係の方々の非常なる努力によつて見事に完成された。ちなみに準備委員は蝶型赤白、同夫人は藍、會員外協力者(新藥、器械、新聞社、印刷關係)は黄、通訳は小紅カーネーションの胸章を附した。

2. 第1日 開會式

4月4日(木曜日)午後5時

産經會館5階 國際會議場にて

正5時發會式。内外の會員・夫人・令嬢及び新藥・器械・報道關係者約500人ギッシリと會場を滿たす。これに來賓を加え愈々定刻發會式に到る。正面演壇上左右にはアジア参加各國の國旗を飾り、壇上向つて左に學會役員、八木・木原・中島・北村の諸氏、向つて右にIF役員、H. de Watteville, B.N. Purandare, B. Carter, J. Jordaniaの諸氏、やゝ後の右に來賓、茅日本學術會議々長、田宮日本醫學會々長、小畑日本醫師會前會長、小川日産婦學會々長、アジア側出席者代表として Acosta Sison 氏(フィリッピン)が座る。

先ず、北村幹事により流暢な英語を以て大會役員・IF役員及び來賓の紹介をなし、本學會の成立を宣し、時間節約の便宜上、學會の運営は英語を公用語として使用

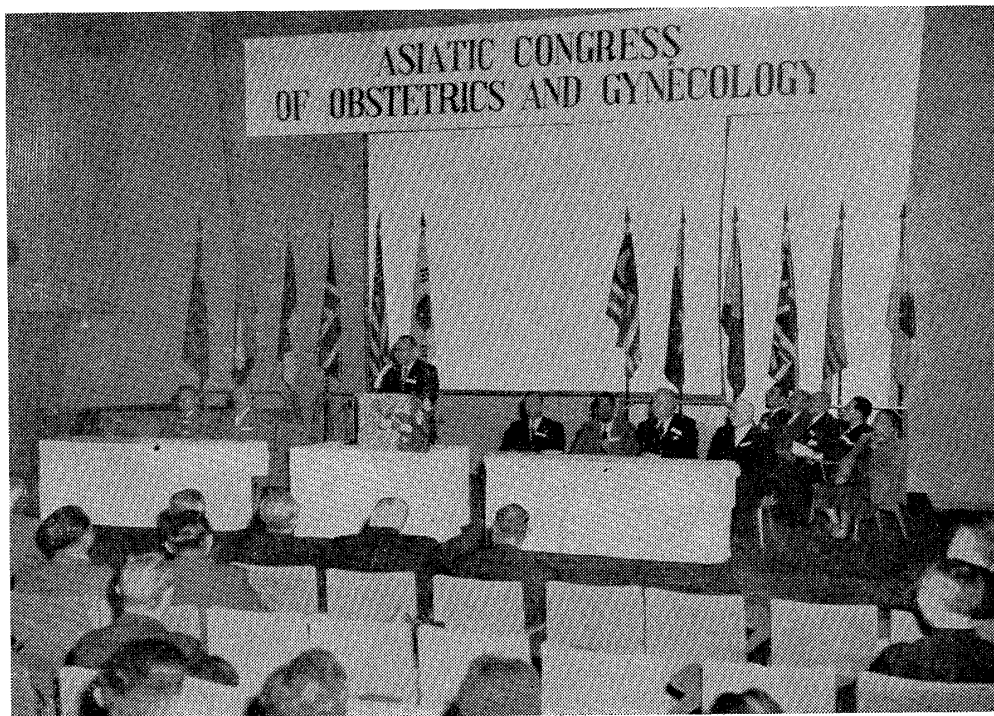
する事を述べる。

次いで八木会長は開會の辭を述べた。これは 835語にのぼる英語演説で、「アジア學會が I Fの地域的學會として成立した事を喜び、I F會長の出席を謝し、日本産婦學會の主催、その他の多數團體及び會社の後援を感謝し、次いで醫學は人類普遍のものであるが、地域的な疾患の特殊性、統計・治療の特異性があるから、産科及び婦人科に於ける人種的特徴と云うテーマを主題とした所以を述べ、出席會員がこの問題を真剣に討議されん事を希望し、日本はアジア大陸から隔離されながら、自己の

文化は古くより樹立し、これに中國・歐米の文化の影響を受けつゝも、自己獨特の醫學を培つていた。特に賀川玄悦及び玄迪の親子 2 氏の業績を詳しく論じ、日本の産科學の創始者として、この功績をこゝに讃えたいと述べた。且つ、アジア各國にも賀川氏の如き功勞者が夫々の國に於てあるだろうと示唆し、今後アジア各國が十分協力して産科婦人科學の發達に貢献し、この事を A F連合を通じて世界の平和と人類の福祉につくしたい」と結んだ。

次いで後援者として來賓の祝辭、即ち小川日本産婦學

寫真 2 發會式光景



會々長・茅日本學術會議々長・田宮日本醫學會々長・小畑日本醫師會代表(日本語演説で、これを北村幹事が即席英訳した)、アジア側出席者代表として Acosta-Sison の祝辭を以て開會式を終了、引き続き 6 時 30 分より特別講演「産婦人科に於ける血壓降下劑の應用」I F會長 H. de Watteville (30分間) が行われた。

終つて 7 時、會場より數台のバスに分乗し、小石川樺山荘の東京都安井長官主催のレセプションに臨んだ。非常に賑やか且つ和やかな集いで、時のたつのを忘れ、余興日本舞踊を鑑賞し、9 時散會した。

3. 會員演説(第 2, 第 3 日)

4 月 5 日午前 8 時半より會員演説を第 1 會場と第 2 會場とに分け、第 1 會場は開會式を行つた國際會議場、第

2 會場はその隣の No. 3 室に於て行つた。初め第 1 會場は英語と英語以外のものは(例えば日本語)英語通譯をつける考で、通訳用イヤホーンをとりつけるつもりであつたが、イヤホーン代に 10 万圓も費用がかゝると、英語使用の申し出が殆んど大部分であつたので、イヤホーンを節約し英語一色に変更した。

主題は「産科及び婦人科に於ける人種別の特徴」で、その中特に(1)妊娠中毒症(2)急性絨毛上皮腫(3)子宮癌の 3 題を取り上げ、他のものは一括(4)の部類に入れて、第 1 會場では(1)(2)と(3)の一部 I Session より III Session、第 2 會場では(4) VI, VII Session をこなした。アジア諸國の會員は演説 15 分、歐米の來賓には特別演説として 30 分を割り當て、討論追加は 5 分以内

寫真3 都長官レセプション



とした。1 演説の終つたとき、座長より豫め預告した討論（これは Supplement に印刷し、會場で全員に配布した）に対する答辭を求め、次いで Open Discussion として處理して行つた。

言語の相違による問題を考え、少しでも理解を助ける爲 Full text を印刷し、Congress Volume として豫め配布しておいたから、聴衆も既にこれを讀んでおくか、又は演説を聴きながら Volume を讀んで、余程理解に役立つ様である。Open Discussion の介助者としては豫め通訳を委嘱しておいた。その方々の氏名は次の如くである。

尾島信夫^o（慶 大） 尾見義信（日赤産院）

日高二雄（日赤産院） 後藤明代（日赤産院）
 井本俊次（阪大内科） 野上一雄（阪大兒科）
 荒井 清（東 大） 出口奎示（東 大）
 田中 哲（慶 大） 桜井規矩（慶 大）
 堀 菊子（日 醫 大） 田中一郎（日醫大開業）
 小野春生（東京警察） （順序不同、○印は主任）

各 Session に2名宛配置して演者を助けしめた。之等の討論は英文議事録 Proceedings of the Congress に掲げた。

次に座長は各 Session 毎に2名、1はアジア側、他は日本産婦學會の名誉會員として委嘱した。その氏名は次の如し。

日時	會場	部門	演題番號	時間	アジア	日本
4月5日	I	I	1~6	a.m. 8.30~10.30	B.N. Purandare (インド)	久慈直太郎
			7~11	a.m. 10.40~12.30	R.S. Prawirohardjo (インドネシア)	安藤 画一
	II	VI	39~43	a.m. 9.00~10.30	D.K. Samy Pillay (ホンコン)	荻野 久作
			44~47	a.m. 10.40~12.00	W.R. Thuriappah (マレー)	長谷川敏雄
	I	II	12~16	p.m. 2.00~ 3.20	H. Ahmed (パキスタン)	吉川 仲
			17~20	p.m. 3.30~ 5.00	S. Tjokronegoro (インドネシア)	吉松 信寶
	I	III	21~22	p.m. 5.10~ 6.00	Tran Dinh De (ベトナム)	小畑 惟清
			48~51	p.m. 2.00~ 3.30	R.Y. Sakimoto (ハワイ)	佐久間兼信
4月6日	II	VII	52~56	p.m. 3.40~ 5.00	Kanagasnigam (マレー)	高 楠 榮
			23~28	a.m. 8.30~10.30	A. Baens (フィリッピン)	篠田 紘
	I	IV	29~33	a.m. 10.40~12.30	Chien Tien Hsu (台湾)	大野 精一
			34~38	p.m. 2.00~ 4.00	B.H. Sheares (シンガポール)	山田 一夫

午後7時演説終了後、第1会場にて余興として松見彌翠嬢の日本舞踊「道成寺・江戸の四季」を供覧した。松見彌嬢は會員山田康博士の令嬢で、松見彌流の家元、日本舞踊家として國際的に知られている人、その美しい舞姿は外人はもとより日本人さえ恍惚とする様であった。次いで産經會館9階のニュートーキョーグリルで日本學術會議主催のレセプションがあり、兼重副會長のスピーチ、續いて八木・荻野・Watteville 等數氏の感想談があり、和氣堂にあふれる盛會、更に日本プラットバンクの映畫を供覧した。

翌4月6日は午前8時30分から第1会場に引き續き子宮癌のテーマで、IV Session, V Session を、第2会場では學術映畫の上映を行った。

午後4時に第1、第2会場のプログラムを凡て終了し、第1会場に於て閉會式を行ったが、先ず八木會長より閉會の挨拶として、「3日間にわたる會員諸氏の協力を謝し、4年後1961年多數の會員諸君とインドに於て再び元氣で再會する事を希望する」と述べ、次いで次期會長 S. Mitra が「インドに多數の方を迎えて、盛大且つ有意義に第2回アジア學會を開き度い」と招待演説を行い、一同の拍手を受けた。

式終つて、バスに分乗、歌舞伎見物を行った。これは日本産科婦人科學會會長の招待である。夕食も歌舞伎座の特別食堂にてとり、心ゆく迄歌舞伎藝術を觀賞した。10時散會、思い思いの歸路についた。

他方、全會期を通じて別室 No. 9, 10, 11の3室に醫學展示を、6階 No. 3~6の4室には商業展示(新藥・醫科器械・圖書雜誌等)を夫々行つて一般に供覧した。

4. 會員演題及び題目

最初プログラムに掲げた演題の中、不參9、新に組入れたもの4となり、結局演説したものは50題で下の如くである。

4月4日

p.m. 6.30~7.00

特別講演

H. de Watteville(ジュネーブ, スイス, IF會長)
産婦人科領域に於ける血壓降下劑の應用

第1部門(第1会場)—妊娠中毒症

4月5日

a.m. 8.30~12.30

1. 足高善雄(大阪)

妊娠中毒症の研究

2. 加來道隆(熊本)

妊娠中毒症の成因に就いて

3. Alfredo Baens (マニラ, フィリッピン)

妊娠中毒症

4. 真柄正直(東京)

妊娠中毒症の本態に就いて

5. Benjamin H. Sheares (シンガポール)

鎮靜劑による妊娠中毒症の治療

特別講演

6. William E. Crisp and Milton L. McCall (コロンブス, オハイオ, 米國)

妊娠中毒症の治療

10分間休憩

7. 森山 豊(横濱)

晩期妊娠中毒症の臨床的研究

8. 竹内繁喜(東京)

妊産婦死亡と中毒症

9. 中山榮之助(新潟)

日本に於ける子癇の統計的觀察

10. 九嶋勝司他(仙台)

遷延性晩期妊娠中毒症の長期觀察

特別講演

11. (A) H. Grauert (ドイツ)

子癇の原因と治療

11. (B) L. Novikova (ソビエト)

モスコウ・ヘルツェン國立癌研究所に於ける子宮癌の併用療法

第2部門(第1会場)—悪性絨毛上皮腫

4月5日

p.m. 2.00~5.00

12. Sarwono Prawirohardjo 他(ジャカルタ, インドネシア)

インドネシアに於ける胎状奇胎と絨毛上皮腫に就いて—新分類に基づいた臨床的研究

13. 長谷川敏雄(東京)

日本に於ける胎状奇胎と絨毛上皮腫の統計的觀察

14. H. Acosta-Sison (マニラ, フィリッピン)

1950~1954年間にフィリッピン General 病院に入院した27例の顯微鏡的に診斷された絨毛上皮腫に關する研究

15. 樋口一成(東京)

絨毛上皮腫と胎状奇胎の病理組織學的研究

16. Chi-Ts'ai Lin and Chien-Tien Hsu (台北, 台湾)

胎状奇胎と絨毛上皮腫例に於ける腔脂膏及びホルモンの決定

昭和32年10月1日

アジア学会議事録

1387-133

特別講演

17. J. Jordania (ソビエト)
女性々器癌に於ける2, 3の論議
18. 夏目 操他(岐阜)
悪性絨毛上皮腫に關する2, 3の知見
19. 内田 一他(金澤)
過去10年間の悪性絨毛上皮腫の統計的及び臨床症
状に就いて
20. 小川玄一他(札幌)
絨毛上皮腫及び胎状奇胎の本態と臨床的研究

10分間休憩

第3部門(第1会場)-子宮癌(a)

4月5日

p.m. 5.10~6.00

特別講演

21. B. Carter (ダーラム, ノースカロライナ, 米國)
子宮頸部の上皮内癌

第4部門(第1会場)-子宮癌(b)

4月6日

a.m. 8.30~12.30

22. Lien Khe Loen (ジャカルタ, インドネシア)
インドネシアに於ける子宮癌の2, 3のデータ
23. 三谷 靖他(長崎)
子宮頸癌の手術例に於ける淋巴節轉移に就いて
24. Chien-Tien Hsu 他(台北, 台灣)
台灣に於ける子宮癌
25. 藤森速水他(大阪)
P³² を使用する子宮癌診断の新方法

特別講演

26. Ludwig A. Emge (サンフランシスコ, カリ
フォルニア, 米國)
エストロゲン癌假説の回顧, 特に子宮體癌に就て
27. Subodh Mitra (カルカッタ, 印度)
子宮癌
28. 八木日出雄他(岡山)
子宮頸癌治療に於ける手術的侵襲の限界
29. B.N. Purandare (ボンベイ, 印度)
子宮頸癌の手術療法
30. 木原行男他(福岡)
子宮癌のテレコバルト⁶⁰ 治療に就いて

特別講演

31. Lewis C. Scheffey (フィラデルフィア, ペンシ
ルバニア, 米國)

骨盤悪性腫瘍の迅速診断と處置に關する決定的方
法-その豫防法に就き

第5部門(第1会場)-子宮癌(c)

4月6日

p.m. 2.00~4.00

32. 中島 精他(東京)
非腫瘍性増殖に及ぼす抗腫瘍性物質の影響に關す
る知見
33. 澤崎千秋他(京都)
子宮癌患者のナイトロジェン・マスタード・N-
オキシード療法
34. 瀬木三雄(仙台)
日本に於ける女性性器癌の統計學的特徴

特別講演

35. Abraham F. Lash (シカゴ, イリノイ, 米國)
子宮癌發生頻度に於ける人種的差異

第6部門(第2会場)-人種的特色(a)

4月5日

a.m. 9.00~12.00

36. Nguyen Van Hong and Tran Dinh De (サイ
ゴン, ベトナム)
南ベトナムに於ける子宮外妊娠の異常なる増加
37. T.H. Chen (台南, 台灣)
軟いゴム管と0.1%リパノール液による分娩誘導
38. L.F. Luhulima (ジャカルタ, インドネシア)
ジャカルタに於ける卵巣腫瘍に關する2, 3の統計
的データ

10分間休憩

39. 町野碩夫(鹿児島)
産婦人科領域に於けるフィラリア症(バンクロフ
ト)の研究
40. Njo Tiong Tjiat and Poorwo Sudarmo (ジャ
カルタ, インドネシア)
インドネシア妊婦に於ける營養學的研究
41. S. Nishijima (ホノルル, ハワイ)
1945~1955年間のハワイ地方に於ける母體死亡
42. R.M. Juđono and Halidah Azir (ジャカルタ,
インドネシア)
ジャカルタ住民間のRh-因子及びその他の血液型
の分布状態

第7部門(第2会場)-人種的特色(b)

4月5日

p.m. 2.00~6.00

43. 赤堀和一郎他(京都)
骨盤傾斜の人的差異及び分娩機轉に及ぼす影響
44. Tran Dinh De and Nguyen Van Hong (サイゴン, ベトナム)
ベトナム婦人骨盤のレ線骨盤計測
45. Tadjuluddin (ジャカルタ, インドネシア)
インドネシア婦人骨盤の實測
46. 柚木祥三郎(東京)
頸管粘液の化學的研究—頸管粘液の化學組成と卵巢機能及び精子受容性との關係
10分間休憩
47. Chien-Tien Hsu 他(台北, 台灣)
女性尿道癌に就いて
48. R.Y. Sakimoto (ホノルル, ハワイ)
第2次世界大戦終了(1945年)以來私の Privata Practice に於ける連続 5093 例の分娩に就いての分析批判
49. Habibuddin Ahmed (ダッカ, パキスタン)
パキスタンに於ける産科の進歩
5. 醫學映畫(第2會場)
4月6日
a.m. 8.30~p.m. 4.00
1. B.N. Purandare (ボンベイ, 印度)
腹式子宮頸固定術による子宮脱の治療
 2. 藤森速水(大阪)
人工造脛術(藤森法)
 3. 中山 安(東京)
人工造脛術(中山法)
 4. 岩井正二(松本)
脛式避妊手術
 5. 毛利隆彰(横須賀)
ヒステロスコピーによる早期妊娠時の胎兒運動
 6. 毛利隆彰(横須賀)
卵管電氣凝固法
 7. 真柄正直(東京)
脛トリコモナスの生態
 8. チバ製藥會社(パーゼル, スイス)
3胎分娩
 9. 木原行男(福岡)
赤芽球症兒の交換輸血療法
 10. 藤森速水(大阪)
子宮頸癌に對する岡林式根治手術
 11. 八木日出雄(岡山)
子宮頸癌に對する岡林式根治手術
 12. 加來道隆(熊本)
子宮頸癌に對する岡林式腹式廣汎性子宮剔除術
 13. B.N. Purandare (ボンベイ, 印度)
子宮頸癌に對する廣汎性腹一脛式子宮剔除術及び腹膜外淋巴節剔除術
 14. Subodh Mitra (カルカッタ, 印度)
脛式根治子宮剔除術及び腹膜外骨盤淋巴節剔除術(Subodh Mitra 法)
 15. Lewis C. Scheffey (フィラデルフィア, ペンシルバニア, 米國)
骨盤惡性腫瘍の診斷
 16. ~18. チバ製藥會社(パーゼル, スイス)
婦人科に於ける最新手術療法(5卷)
 19. 三林隆吉(京都)
子宮癌の三林式廣汎手術
 20. 内田 一(金澤)
腹式卵管不妊手術
6. 醫學展示(産經會館5階の展示室)
會期3日間を通じて展示公開
1. 明石勝英(札幌)
子宮筋のアクトミオシン
 2. 赤須文男(東京)
 1. 性ホルモンの副腎皮質に對する作用
 2. 卵巢内の副腎皮質ホルモンと男性ホルモン
 3. ホルモン産生臓器としての胎盤
 4. 胎盤内蛋白體ホルモン
 5. 侵襲に對する副腎皮質の過強反應
 3. 福島醫大産婦人科(福島)
 1. 實驗妊娠中毒症
 2. 子宮内結核菌の培養新法
 4. 秦清三郎(東京)
 1. 惡性絨毛上皮腫の統計
 2. 新分娩豫定日算法
 3. 腦下垂體移植
 5. 樋口一成(東京)
卵巢充實性腫瘍
 6. 石川正臣(東京)
脛塗抹法
 7. 岩井正二(松本)
骨盤リンパ節造影法
 8. 笠森周護(金澤)
開腹鉤と脛鏡保持器
 9. 木原行男(福岡)
胎兒並びに新生兒赤芽球症の臨床

10. 神戸醫大産婦人科 (神戸)
性腺と甲状腺との関連
11. 九嶋勝司 (仙台)
 1. 妊娠中毒症の地理的分布
 2. 女子性器結核症
 3. 各種疾患の内分泌像
12. 町野碩夫 (鹿児島)
産婦人科領域に於けるフィラリア症
13. 真柄正直 (東京)
腔トリコモナスの純培養法
14. 三林隆吉 (京都)
人胎盤絨毛組織及び悪性腫瘍組織加水分解物の生物學的的作用並びにその特異作用物質の本態追求
15. 御園生雄三 (千葉)
T.P.T. 法並びにSH法による子宮癌の診断
16. 三谷 靖 (長崎)
子宮頸癌組織的悪性度判定に對する C.P.L. 分類の價値
17. Subodh Mitra (カルカッタ, 印度)
廣汎性腔式子宮全別術及び腹膜外骨盤淋巴節別除術
18. 宮原通顯 (久留米)
日本住血吸蟲症の産婦人科領域に及ぼす影響
19. 水野重光 (東京)
カンディダ
20. 毛利隆彰 (横須賀)
ヒステロスコピー
21. 森山 豊 (横濱)
 1. 妊娠中毒症早期發見法と明滅融合限界圖測定器 (労働科學研究所製)
 2. 指尖容積脈波計
 3. 簡易下肢浮腫測定器
22. 中島 精 (東京)
 1. 各種腫瘍の鶏卵移植實驗
 2. 各種組織の電子顯微鏡寫真
23. 小畑惟清 (東京)
産科統計表
24. 澤崎千秋 (京都)
 1. 人胎盤絨毛の細胞學的研究
 2. 妊娠時の蛋白代謝機序
25. 新甲 洋 (岡山)
子宮頸癌のコルポスコピー
26. 須田 實 (東京)
須田式陣痛測定器
27. S. Tjokronegoro (ジャカルタ, インドネシア)
Choriocarcinoma の3種と絨毛の腫瘍性發生の新分類
28. 八木日出雄 (岡山)
連續附圖による子宮頸癌の根治手術
29. 山元清一 (名古屋)
 1. 6胎の1例
 2. 名古屋大學醫學部産婦人科教室の子宮癌の治療成績
 3. 子宮頸癌の化學療法
30. 山本禎一 (東京)
肝妊娠
31. 安井修平 (東京)
高周波電流による卵管焼灼不妊法
32. 橋爪一男 (東京)
レントゲン立體觀察測定裝置
33. 佐々木計 (東京)
吸引法による初期人工妊娠中絶術
34. 尾島信夫 (東京)
妊娠中絶に對する腔式子宮下部横切開
35. 佐伯政雄 (東京)
電氣圓錐切除法, 腔部糜爛の根治療法及び頸部癌の豫防

[D] 會員數と會員へのサービス

參加會員は會費を支拂つたもの、國外73名、國內 271名、計 344名であり、夫人、令嬢の家族會員は内地・外國を加え 100名あつたので、總計 444名である。アジア以外の國 (歐米) の出席者の中には來賓として特別講演に招待した7名を含んでいる。

歐米

カナダ…2, ドイツ…3, スイス…1, アメリカ…

16, ソビエト…5

アジア

台湾…21, 香港…2, インド…3, インドネシア…9, マレー…2, パキスタン…1, フィリッピン…6, シンガポール…2, ベトナム…2, ハワイ…3

夫人・令嬢の家族會員には市内觀光を行いサービスした。その要領は、

4月5日

- Tour A** a.m. 9.30 産経會館前發
 〃 11.30 晝食の爲歸る
 ニコライ堂・湯島聖堂・東京大學・上野公園(30分
 休憩)・浅草寺(30分)・記念堂・兩國橋・丸の内
Tour B 14.30 産経會館前發
 17.00 産経會館歸着
 皇居(20分)・九段・國會圖書館(30分)・明治神
 宮(20分)・國會議事堂・日比谷公園

4月6日

- Tour C** 9.30 産経會館前發
 11.30 産経會館歸着
 東京駅・都廳・銀座・中央市場・三越百貨店(80
 分)・ファッション・ショウ・日本銀行
Tour D 14.00 産経會館前發
 16.30 歌舞伎座へ
 日比谷公園・慶應大學・増上寺(20分)・椿山莊
 (30分)

學會新聞 Congress Bulletin を毎日發行(No. 1 ~
 No. 4) し毎朝 8 時會場で無料配布した。これにより、
 演題の変更、座長・通訳の氏名、締切り後入會した新會
 員の紹介等を通報し、會員相互の連絡に便ならしめた。

來賓演説者には日本産婦學會より記念品として、美し
 いメダルを 1 箇宛贈呈した。これは日本産婦學會の宿題
 擔當者に贈るものと同じ意匠であるが、裏面には演説者
 の氏名を一々刻み謝意を表したものである。

[E] アメリカ母性保護協會から 木槌の贈呈、祝電及び祝辭

外國では司會者、會長、議長等にそのシンボルとし
 て木槌 Gavel を贈る習慣がある。これで鐘を鳴らして
 開會を宣したり發言を許可、或は禁止する爲であるが、
 この木槌の美しい品が、アメリカ母性保護協會々長及
 Carter 氏から、八木會長へ贈られた。この槌の頭の中央
 に銀板が巻いてあり、こゝに「第 1 回アジア學會の成
 功を祈り、日米兩國の親交を希望する」との文字が刻ん
 であった。

アジア學會に祝電を寄せられたもの：

西ドイツ IF Mitglied für Deutschland, H. Martius,
 Göttingen, Die Deutsche Gesellschaft für Gebur-
 tshilfe und Gynäkologie, Präsident Prof. Dr.
 Hano Runge, Heidelberg
 北 鮮 Scientific Committee, Ministry of Public

Health, Dr. Hong Hak Keun, Chairman

祝辭を寄せられたもの：

カナダ Prof. Dr. Léon Gérin-Lajoie, President of
 Second World Congress of Gynecology and Obs-
 tetrics, Montreel
 イタリア Prof. Dr. E. Cova, President of Italian
 Gyn. Society
 セイロン Dr. N. Athygalh, Vice-Chancellor of Un-
 iversity of Ceylon
 ビルマ Dr. Dau Yin May, President of Burmese
 Society of Obst. & Gyn. Dufferin Hospital Ran-
 goon, Burma
 アメリカ Dr. G. Douglas, President & Dr. J.C. Ulle-
 ry, Secretary, Ame. College of Obstetricians and
 Gynecologists, Chicago, III

[F] 會計報告

収入の部

日本産科婦人科學會より	917,450
寄 附	653,000
参加費 国内 271名 国外73名	392,071
廣告料	333,600
出陳料	181,000
演説集賣上金	432,000
學術會議レセプション會費	167,000
歌舞伎觀覽料	69,350
別刷代	61,603
都内觀光参加費	8,400
預金利息	5,291
計	3,220,765圓

支出の部

印刷費	995,150
印刷費(封筒, 便箋, カード等)	32,900
會場費	626,050
展示費	149,845
宴會費	332,873
接待費	66,120
歌舞伎接待費	210,200
バッヂ作成費	28,600
記念品代	44,000
記録費	47,880
會議費	59,867
旅 費	57,080

昭和32年10月1日

アジア学会議事録

1391—137

通信連絡費		
主として外国向航空便	187,490	} 238,205
内地向郵税	50,715	
雑費		55,441
参加取消等返却分		18,039
議事録印刷費(英文)並に發送費		258,515
計		3,220,765圓

[G] 寄附者芳名録

日本産科婦人科学會・東京都・日本學術會議・日本醫師會・東海産科婦人科学會・武田製藥・森永乳業・明治乳業・日本ブラットバンク・山之内製藥・三共製藥・帝國臓器・日獨藥品・日本新藥協會・醫科器械・西川醫科工業・江刺家商店・福田商店・中國印刷・日本醫書出版社

[H] 商業展示出陳者

藥品關係

エーザイ・東京田邊・持田・台糖ファイザー・山之内・帝臓・イナハタ・鳥居・興和・住友・日獨・森下・杏林・チバ・明治乳業・武田・森永乳業・三全・田邊・第一・バイエル・ハクラン・藤澤・三共・鹽野義・共成・大日本・日本ブラットバンク・科研藥・中外・万有・三光・南方藥・日本新藥

器械關係

山越製作所・田中レントゲン株式會社

書籍關係

日本醫書出版協會

附記

以上第1回アジア産科婦人科学會の概要を記録に編纂した。この學會が全く豫期以上の成功を収め参加外人の全部から非常な満足と感謝の讃辭を寄せられた事。又學術の国際交流に寄與する事が出來た事等、我々關係者一同の大きな喜びである。これ偏えに主催者日本産科婦人科学會の絶大なる御支援の賜であり、又全役員諸氏の物心兩面にわたる熱誠な御支援の結果であつて、こゝに深く謝意を表す。猶、多數の學術團體・新藥器械協會等が多額の寄附を御寄せ下さつた事に對しても衷心感謝の意を表する次第である。

第1回アジア産科婦人科学會役員

八木日出雄

木原 行男

中島 精

北村 三郎

同準備委員會事務局

八木日出雄

中島 精

秋本 若二

1957年7月31日